

地道な地域志向型教育を根付かせるには

中山間地域・島しょ部対策領域 教授 山尾 政博

活動の成果を踏まえて

文部科学省により平成 25 年度に採択された広島大学の「平和共存社会を育むひろしまイニシアティブ拠点」は、27 年度に折り返し地点を通過いたしました。1 年目 2 年目と暗中模索で行ってきた体験学習やフィールドワーク、その経験を積み重ねながら、少しずつですが、地域志向型教育の成果をだしてきました。学生たちには農山漁村の現場で起こる様々な問題を認識し、学習することの大切さを知ってもらうことができました。本報告書は、27 年度の活動を振り返って成果を確認し、次年度降の課題を明らかにしようとするものです。

強まった連携地域との関係

中山間地域・島しょ部領域で行う地域志向型教育は、広島県の市町や地域の皆様との連携とご支援によって成り立っています。体験学習、特別講座、インターンシップ、フィールドを題材にした専門科目など、さまざまな教育場面で地域や自治体等の関係者の皆様にお世話になりました。大学はお願いするばかりで、受け入れていただく皆様に多大なご負担をおかけしました。この地（知）の拠点活動は、大学による社会貢献・地域貢献というよりも、地域や自治体による大学貢献、そう表現したほうがよいのではないのでしょうか。将来的に農山漁村、農水産業、食料産業全体に貢献できる人材を輩出する、大学における人材育成を長い目でみていただいています。

効率よく運営していく地域志向型教育

現地での体験や実習を伴う地域志向型教育は、実は一般科目以上にコストがかかる場合があります。教員にとっての負担もかなり重いものです。ただ、よき地域人材を輩出していくには、この壁を乗り越えなければなりません。中山間地域・島しょ部領域では、これまでの活動を踏まえて科目運営のマニュアル化を進めています。事業終了後も無理なく運営するためのノウハウが必要なのです。

大学と地方創生

平成 27 年度より、本事業は「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」と名前が変わり、広島大学の取組も新しい枠組みのなかに組み込まれました。広島県内の大学との協力関係を深め、地域社会に深く関われる人材を育成する方向を目指します。地方創生に関する様々な活動が実施されるなか、大学らしい活動が求められています。次年度には、そうした活動成果の一部をご報告できるものと思います。